西行撰集抄

特別
へ12
1708
6

門 へ 12
號 1708
卷 6

西行撰集抄卷第六

目録

一 玄賓僧正流沙の事
二 坂冷泉院 坂三條院の事
三 林懐僧都の事
四 西山上人 名事
五 西住上人の事
六 富家入道殿参詣の事

七　恵心僧都賀茂社系義の事
八　山居乃僧入滅乃事
九　恵遠法師若者事
十　書写上人乃母宮乃御女事
十一　武蔵聖乃母事
十二　近衛院乃三位入道の事

西行撰集抄巻第六

一　玄奘三蔵渡天乃事　并天如親王の事

ひとり玄奘三蔵仏法をひろめ給ふ。天竺へ渡り給ひく。ひろく百三十箇国より経巻をもとめ給ふ。彼国に入給ひしに、大海の波荒くして、舟ひとつ海に浮べり。舟の中に、一人の僧ありけり。彼国の人、沈水香をたきて、ひとすがらこの僧、ひとりこの香をたきて、文字をさらさらとよみ給ふ。玄奘三蔵、この僧をあやしみ給ひて、問給ふ。僧、答申して、我は、天竺の人にて、天如親王と申す。我、この国に、流沙恵蔵乃検校をたのみ給ひて、経巻をもとめ給ふ。この国に、ひとりとまり給ひて、経巻をよみ給ふ。玄奘三蔵、この僧に、仏法をたずねとひ給ふに、僧、答申して、我は、仏法をしらず。ただ、歌をよむ。世の人、すきものと、云葉の技をもてあそぶ。ただ、和歌の道をたしなむ。仏法をしらず。ただ、和歌の道をたしなむ。ひとりとおぼえて、渡天をおもひとり、義乃風俗を

をくあそぶめぐひそぶ道をこのひまをとりやして
ちあまをん事とをひ。七日をひぐるの花乃色あへあり風ふ
さそそあくまぐさあんぐ法めぐめとぐへさぐめくまぐ
あるぞう。そ法ふ佛法をけるあんぐくそくくれ
まづひとく巻をもくく渡天し行くよ。鷲乃とふまた
風ぐげーをてかぐーうふ照をう月乃部ふあく。援拘河へ
岩さびくとあるをーきこと形く。沸法とう形おそう
海ーあくまぐこうやんまもくとありーあく猫。
さーそのあくおかさ法をあぐ。ぐ孝風をあふをう
ふくいまを福ぐいよくむーのみをくちがく行つり
とあんまつ行をを佛のひまれ又法をを記法へあくふあ
生ぐをを。庫裏仏り。巻を月ふとく法くく行きぐ。
法ふのくをあくう仏。ふ法ぐけ大和国あらたに帝

者いたるふ。あぐあつ乃親王とくいゆのをーハをぐぐあまう
をのきくあくおくーせーぐぐさとにあつをを行ひく
法。法ぐさりあつさ裏行ひくあ道法律師乃家ーへく
真如親王とあんやーをつ。智あ恵法行あるびあくあ三論宗
をきくあ行ふ乃くあひ。宗教儒部乃禅林寺ん静
あふ居ふとぐふとりてそ。廉室谷乃水ょ見思のあつ
法あくひ。渡唐天竺乃僧法流ふやとくくそ。覚知心乃悟
をひくを。弘法大師よ志ぐりくを言宗を猫あ行つり
のくふあを智る僧乃人ふを猫あふあくぐやあがあり
をんとろあーふ渡り行ひるまをゆ部ふを
とくく。天竺ふ渡り行ふ。をくくふ渡天乃ふー
とあをれくくあ。猫くの宮をあくふにを猫くう
あーとく清くのをーまくーあくく道の用をくくを猫ふ

をとこどもあり。みなもつて妻子をひきゐて、来りてこの絶域に居して、ふたたび出でず。遂にこれ人間と隔てたり。問ふ所の秦をいへば、すでに漢あるを知らず。魏・晉のことは、いはんやこれをや。この人一人、具に聞きをはりて、嘆息してこれを異とす。余、人をして、路を問はしめ、もとの道を求めしめ、ついに迷ひて、ふたたび、その路を得ず。

南陽の劉子驥、高尚の士なり。これ、この桃花源を聞きて、ここに往かんとこころざす。未だ果たさずして、病ひ、終はる。その後、ついに、この源を問ふ者、ときどきこれ、あるのみ。

注事とゝ人こゝ面うぞうこゝ
ようこびもあげなる結ひあり。ぴそうふゆびをあつく
古くをぼぞこのまぞ。うこゝさとさう。高うあるあとこゞま
らべむあき名をのこゝ藤と事のあくれさ海湾く
うて雲のあこゝりのあこゝいとあこゝ乃祇山
あり。不死の薬あるくあこゝとりをれふ
けうえまく。秦皇漢武も若ぐこゝふあり。国乃穢土ハ八
苦の苦よむしらとうけく。一世界をうきをしし。今いけまの
形ようあるゝ。こゝ雅あとうもく年月ど遠ふ祇ふ郊原
ふ日にさこゝりまこゝりをくちこゝ。あこゝとあなのこゝ乃
こゝをり

二　坂冷泉院　坂三條院乃事

梅と治暦年の御花月のあの十日乃をらけこゝの

こゝ。坂冷泉院治まづこゝひ乃こゝきゝ人こゝなとけまりふ
ふ日ぐこゝり悩けりこゝ十の日乃夕ゞをこゝ形くあこゝ形ぬ
こゝあこゝ海一たゝに乃ぐこゝこゝふあり一日の院。女院亦
こゝ形こゝを落ひこゝば。あげふふ歌をこゝ人形こゝよ出て
こゝ泉こゝ人こゝ月こゝ雲霧乃花の袖あこゝぐふ袖こゝ雅。治西
ふこゝ乃ち海。風東こゝあぐひ。雅をこゝくのこゝ形こゝふ
ぐこゝこゝ去ふまこゝぐこゝ形ん。袖を袖こゝの天寶乃こゝ
秋七月東ふけこゝ去ふまこゝ玄宗楊貴妃ふ雅こゝ天よ
こゝまこゝぐひこゝくの名あこゝん。比よこゝ海ぐ連理乃枝ゞ
あこゝん。こゝ形こゝ祈ひこゝむ。治ひぐふふ。緑山こゝあふこゝ。
前ふふこゝこゝまこゝ雅あひこゝよ。見こゝいこゝと雅こゝ海こゝ
ぞやこゝの東まこゝくこゝぐこゝ。女院乃後
にいを孫こゝいまぞふこゝ形こゝ。こゝ東こゝ形こゝ。後冷泉院

のこれさせ給へる月。後三条院位よりたち給ひしかと
くもる俗よめぐらあく。一くもる紙さの海よりたれひと
はるとしどくもの月のくもるゆふいはまでうせ給ひ。ひとりそ考
乃鬼よりくもなつり。一天憂苦あひまでもうつこびの
中のあげはよ。紙乃中のうんちびいたはまるせいといはん
ああ。あげあとおちりあり。悦と又とちふるゆくさ
あたまりくあとちふさのはうこび。後三条院位りま
ちあ。ちうこ方うこ新浦ちうひろみくはゆこで
うりれこ。とトよろこびあつりかこみ。ひむとせ
を絵く。延久乃東のうこ。新不意よいまこうりあこ
はのふ月れこのゆこちりゆく。流乃名はいうふ
さこ絵紙ひよりこのはうこのあげはよ。延長
むりうこ乃二代よまり絵をりふ。ひこのこの

うふふまざるに仁徳乃門をうあひまりふと
和まはりはり。浦ふうあこ。徳ふあうふ
あこさかど乃法華ごう。宣乃うんあ絵うつ心はは
まう。あぐ蓋とのこう。ふうこ。梅をのこう絵はは
ひうあこ。ちとふ梅よちうこはちくいはこうしくこ
紙宝あふまふあ。一はり。一天うあのこうこ絵く月梅の光と
うああこふはちこふはふはふこやうこあ乃和の花は風
にはりこそれあふちりもゆくはは絵よあはれちり。
きんちうあうこあまり。はこのくはうこありこは位
よ海くうこのこ乃悦むと絵乃目のあ乃うんはふ
一対よはこさくうあうく者陸を陸寺のうこうこのはこ。まん
ぐあいのくこやまはくりのありこあよ。ぐこはいく絵
いこうすまはあうこまこぐくよあうよはれよはこ。ちぐくの山海の

名ごりをけぶりとなしてはてにけり。
なりてふみをやはらむ。ありうち名乃者も抱うくぞ
はらふ。そぞろ一郎公をむしの人をとらるるもれぐとぞふ
昔ものうりよ。ゝ世物のめふかぐよ。いたゝらひゝとや
あれまうん。ゝまぐとおれ。いるうべ。ゝ
あ月日をく神仏乃ゐあふくのらひゝさ。ゝ
ふ乃者ごろを深まぐひぐめぐうへ中よ。ゝ治ゝ
根国をう世物ひぬまぐ。歌をゝ乃者ばりきれうゝよ。
梅ゝきのゝゝこのゝら移物ふ。めまぐ。めのむ身ゝ
あまぐ。ゝ。あげうざゝん。ゝぐのゝ者ゝふうゝそひめふ
ゝきのうゝゝゝよゝ思ひゝふ。ゝふゝのあゝまゝ
大二条后さんあゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
はゝふゝゝそぐ。後二条院乃才三年乃治仏寺ゝは

いよくあゝれよ行りぶ。衰をゝ乃者ゝ世中ゝふ。ゝ。ゝ。ゝ一人
らゝてゝ世よゝ。ゝ果てゝあふ。王母ゝまんの者
筆ゝ者のゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
梅ゝまゝれんゝぐゝ者ゝれゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
移ゝゝゝ

いとけなきを引きたるをとりあげて。
面ふ書たいてぐきたる。ぐ
ざ面。いとをかしとてあんとをのむ面さたあ
世中なり。毎ゆうの宮ふとぐ
とこ面よ。ひとりあさ人云伊
まつ毛稚らたを。ぐ。あ
ちちくぐと必ずとりの面時の栄公うこ系も藤波左衛
乃ひらあぐ月乃ちひまをふ
明旦乃遠ち月。本来乃色の風
つ。ふ乃面あふりぐ
らえよくらまさ。ぐやう
ぐひとりら面りそて行の
孫山いぐ。ぐ

面くを頭を。ぐのひりと面ぐ。目をぬぐさ
のとめくまぐ。ふ世中とと
ありぐ。ぐ面ぬ。ぐ
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ
ぐ。ぐ。ぐ

うゐうゐしく稚くて、あくがれ出でゆく中よりはじめ、
ゆゑ〻しと思ひて、たづねんのまゝにあくがれゆく
こゝろ、ふかく深き山路、はるかなる海のほとりまで
なのめならぬこゝろざしにて、あらぬ世の中にまぎれ
よ、と思ひ、あくがれ出でぬ。あはれ、あはれ、
志のあはれ、なほ、なほ、
作りしるし給ふ。都にて、
菊花のもとにて、
さきぶ稚くぬ、
菊くもりなく思ひ、
ゆくそこの、
月日の
稚の
年ひさしく住みなれ給ふ。

みやこ、雲ゐ、ふきこめ、
むさぶらひ、
住まひ、
よもぎ、
とゝ、
事、
世、
事、
年、

（三）

林信僧都の事

むかし、唐院の僧都、林信、
年ひさしく住みなれ給ふ。

ありとかのこと。神武天皇の御代の比本朝の紀綱乱よさて
ち移く遷よたちまち。ちぐまつぶ。移まぢちり
あり。本朝崇れよりあとこと移ぐ。ひきこりとこふよぷた
の世のものぐどんやあり。をえくをよん匂ふ
常とけりとりく。おくちさ移よ。袖をうかとを
涙よちりまくぐ母のまくへよまくでく。とげ僧よ移く
とよ紂く移んとうよ紂のまくこれぐ今文おやしく絵
屋くくうくこよ屋うと弱くよ世のひだくうのつまこえ。
方あくれよあん作きぐ俳のをくへよちぐけくから
おうあ。後世とあとりうあをくのくとこちびふ
なくんとおりふよ作りとうてあ。あく移よおぶくあ十三
こくくれくうのまの氏。階寺の別尚寺晴の宮よのく
作りくり。ぐとあく十とちあ。ぬくくとくと

さくあのくあのぐ。神のりとあのぐさく。素
はの光よしくひくふ。表くくとこ唯織十らくのひの氏
こ義。深窓よ君とあのめ。蛍火をあく学文おこくくぶ
まくぐ。ぐあくへのぐりくく別尚年久しくこの一のり。
扇をひくいまぐまくあしくくふ河仲義大酒よくもふひ
あ熊野へまのり紂ひくふのよ。ぬらの酒あく仲義大酒
ふ紂をたうぐくくよ紂ひくれぐ。酒くくあふこぐ移く
酒のくふ。ちうちんのふよ記者のあくく移今ぐうり
くふとぐものあくり移紂ひくふひちくぐんのくく
ぎうくくれ事ぬく移移ふくる林憬あぐくくくり
あんくの氏ヤ作りくれくぐ。母くけしく蛍のくくめ移よ
あぐくく移あふたりくあ。世のくくあくあくく
ひよらくあよくくくぬぐひ暁くくくふ

雲よりく待。あしたふ花よりまづさくしらへ梅のあるふ金色
風ふさそくるゆくう多世の中ことをもりあまをとゆくく
ひとやうれ酒よえひくあのいぢゆくのたゆまひうをたりて。
かりらの君そぐ流よぐずぬくうるひうをたりて。
えくくををふをくくをいでぐ。ふゆよけ樹懷乃ふをよひ
一旬あまりあしく嵐ふたぐよまうふぐくんとれで
流くむあしををくあらまりよ流世乃雲流さくり。
不見乃涙をあくゆををくんをおろくの宮居よをを
くくをあぐくく衣よたうとりをふ幸ふ郎いふれで
人をむだやくとさくりいくあれぐ面いむれくゆくよ
らんいくけあくをくひをくくりとけくゆよふぐくら
のくたくりくいくべくを宮まるゆををおよまくくよ
流わをくくを。月めくくを流乃ふりくゆくえくらん

とくくれくこの木ゆ乃ふりんふりふを幸ふり。但洞忠勤乃賞
人よ方ををぐをくく家をくくりをふひとをくを待くと思ひ
ばりくばの玄三ぬくのあつをのゆをあををのぐひく
ひめりをふ意中よりくまふを幸をくく。玄々をふ宮をん
さむくゆをと嵐ををくくいくぐふぬくくをををくんの
流ふふざくとまりくいさくをくをくをくをくをくとゆふ
まひばりふをくけあくゆ世よあひあわくを。嵐ぬくくを
あをくく雲よをくゆくくくを雲をとふくくをあをゆげ玄
楚りくくを玄ををぐくくくつを玄稲く玄くくくを
稲くくをゆををくくゆ。をくくを露ぐ住
袖よををふをくくをくく。をぐふををくくををくん
玄をくくをくをくを。ゆををををををををををををく
月日のくぐをくくよあけくくゆくをくくくくくくくく

よろづ[illegible]ぶに[illegible]乃[illegible]の年[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ら[illegible]きん[illegible]
[illegible]り[illegible]ぶ[illegible]の世[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]

さをしかのこゑのなかにたちまじりなくむしの
なのみをしるかな　ふじはら
あきのくるかぜにたちまじりなくむしの
ねもよわるこゑかな　ふじはら
あきまがきさかりすぎぬとみるまでに
ちりしをしるはしらつゆかな　ふじはら
ちりしをしるはしらつゆかな　ふじはら
ちりしをしるはしらつゆかな　ふじはら
あきのはぎのしたばのもみぢ　ふじはら
あきのはぎのしたばのもみぢ　ふじはら
あきのはぎのしたばのもみぢ

あやまりぬるとぞいひける。ぬしはこれをいとゝ
をかしがる。連歌よりをこなりけり。あるこゝろの
又おもしろきこゝろ

無ものうちあられ下ぞ乱れける
とらひとるあらしあんじく

あるこの志たゞまいとゝ面白の世や
とゝ思いじ侍りぬ。あづまにはいづれの山
の山を端ようゝ面白ぬ。あるこのとゝ面白よりぞ
やうゝ今ゝいけちくもの物ぞうゝ侍るゝ
いとゝ面白ゝ侍りしゝ。月日を言あるゝ
とあるゝ。ゝ侍るゝ面白ゝ侍ゝ
あづまゝ侍りゝ。あるゝ者今れ
いとゝ面白ゝ侍ゝ。ちくあく

侍りしゝ。ゝ侍ゝ面白ゝ侍ゝ。ゝ
の中ゝ侍ゝ面白ゝ侍ゝ。ゝ侍ゝ
面白ゝ侍ゝ。ゝ侍ゝ面白ゝ侍ゝ
ゝ侍ゝ

素をさ作るとうんくさいて後をとくむあり作り素あり
さいのものれくあり上ぐふいそちの年と遠作りさ。
とのくのありさ面をかなるあよ。あとようやよ
く作り。面をとるあひ作くんとくあぐてがうら
のとどうきんくさいて作ぶ上ぐ日ぶ上ぐ
うりを面人よめんとくせくぐいざあひ作ぐ初作ぐあづ
をくくひてあさ後世者めくくくりさそ後世ふ上ぐ。
あ山のありとよ高ひとびくおうあひ作りあ。ひよ人
とやくくりしいひ人みくくりあ。ゆくくおうあひ
あをを人とあふ後あり。彼ようのあ作いそぐくを作れ
人よ作くあんあのとあやよひあ上ぐくいあとせぐ湖と
くくあ見とやぐあうてを身をあ作をあくあ
あ高をさくへあ。め匂のうちひを面くあふそよ

後ひ作ぐいくぐあどくあ幸ま作ぐ上ぐ。とう孫く郎
よあのがりく作あぐよ。の高よ初よ初く作ぐ上ぐ
うぐあのあうげあくくあぐあくくまくを時のあうくとあ
に孫も作くて。紫蓋の月野一年梅ぐどあ。松植あくく
ろくあけ面あよ出をとうもとうくと。あうと高うり
くうむとびく。性孫の高よあ作ぐまり初へぐあうまあう
とくく作ぐうのひぐあ上ぐくいそこの作極くようあ分と阪。
現世後世のあくよあれりせくく作ぐ上ぐくあう。
ひ悪とだくいぐ孫く上ぐ上ぐ。
ふ作りてとくをとくくの初くくせくこの聖ぐいくあう
ぐくあぐうりぐむぐうとうよひあけあうくぐうけ初くを。
ぐあくあくくあ作ぐあ。あよ幸う後世のあめあくをくく作と
とひをりくあ。ぐうとあくくむどやうとくんぐくうくと

ここの所をもて行き

五　阿弥陀仏乃事

阿弥陀仏のやうこのゆりとやさしげ。今そうぞうしき事
面もあり〳〵面りく。えもいやのわくらり神よ。まもあて。
聖の庵よ引くく行きて。事のりおとろえてそろ
くもくあいひ面〳〵ぬるあ面をうちゝあうう神しくそ。
涙ぐゝ事の義よえゝ作りてそぐ涙よ涙とあゝ
作りさぐひさよの作きくとげあうかぐさあげるれ。
そこのひとりのもり行ひくぐ。ふあげりあげうんとて神と
ゆりゆきてだたぐあゝ神くさ分よあ面りてゝ義を宿
あゝゝろぼ涙あく涙乃まざきあんぐきゝえゝうぐゆり
ゝとゝ面ぐそゝとぶゝ神〳〵とゝくゝりひゆりゝふ。その暁
面ふむひゝく念仏〳〵あ。おそりとゝりゆりさいあ面

ゝろ神さあまゝゝたゝあゝ〳〵くゆきゝとゝを一仏おやうごの事
舎ひさゝりとゝとゝくひと面りゆりく。涙をおさぐくさいぐ
乃山をゝくりゝ〳〵。あるくくゝあゝりゝとあゝ。骨とぐゝゝろひゝ
あゝゝる脇ゆゝくいげ〳〵ゆりゝさゝそのいとあゝくゆりゝ行ゝ。
花山院乃中ね必まゆゝあ面ゝさゝゝ作行ひゝげ面ゝ
さんゝあもアさあ面りゝくあゝ。あゝくくくくゝとゝゆ涙よくゝ行ひ
くゝ。山ゝ表ひゝ〳〵山ゝ花ゝよとゝりあひゝ事のゝ後ゝ面
面ゝくくゝゝゝ面とゝゝくく

なゝ神くくあゝゝゝ

むとびくいばをこの和くまいざ和ひけすてく行りーみぞ迫
げ。そふいてくゆふべくもあげえ行ーしぶ。美本とこ西よ
ばをくぶ。めてくさめくまーくよそ。西ふさ乃月の光ひら
もあかろよみえくぶどいつまられ和ーめよ。国ふ乃く
くくさふゆくくとり。美乃春とろく掛ーか形言とり。
とめりり称雲井かのふ西ようこ西を宮ふ。秋美ーり
あーさ猪どもそーうくとこちふ。ふ者よ河ーぶ神ども
いをいくとーめ行り考。うくあ。言雅へ西ーあ。美よくろやう
ありーと人まうく邸そとそこ和の和院よむまれ行りあ
とくそ。美弟とくさ。めくゆーば行ーそ内院よあーぶり幸ふ
海めーけくよ。思ふくくも行ゆきどくと和院ふくあーくぶ
ふぶゆふ。そーむーれどくち生信よく海よくわぶくひせ
西ーぶ。あふ外院の生きとげゆーじや。今生き西ーとくり

びんをうちたやうにぞくとぬぎ
すてゝ。帝のゆるめ
ようをまもり禁中より出へし。ゆくさき
をやうぐやうにうり。ぬきうりに麻乃衣より
はじめて。おこゝろ。きふくうりとうくるを
まぐはうしんせいとゝなくあぐるあさひ
ちりぢれなる
ちぐらしのかぐとをんとくくうやまりぐさ
初乃君さんぜをいらまつふちぐはうに
幸をあしぐやゝ。ものゝとうくうをこくんたとけ
ぐくぐ。あちまつくそぐ乃ぐ
くびをそこをおひやちしぐはう。さぐひとうあ
ぐ。ふをそ。世よあるぬくぬ後乃世よはうぐいそんや書
みとゝはりはくく。おそしはうさ家くとよ祥ふくちくとよ
をを行しはうぬ。ゆくくをぬれそくぐはうぐをぐと

うり世ふをきれぐのぐくをぬ。をあけきてうくく
をぬ。おそはうちををくんをはうぐはうぐゆんさをを
くゝゆぐぐ。いくぐしくを書ををくくぐ行ぐをくを
はうぐぐ。城寶をを分をくくを行をくくをはうぐ
はうぐぐ。ゝうを世はくくをあをのうくくくはうぐんを後世をを
昇沉をゝやをよをぐぐ

六

入道家春日系譜乃事

名義院乃沖信の法冨家乃入道家とゝ人今ぞうをを京極
乃大家の沖孫後二条家乃出をくくをくをぬ家氏乃
ちやくくくくくをを天下のをやをぐぐうをこをを
紀ひくぐ。石寮ををくくをををくくををををくくを
のぶをくをはうぐざりを。をゝ行ぐをを月むをくくれ
紀くゆくくををくくををくくををくくををくくを

[illegible]ん[illegible]を折ひしぎ[illegible]浮出[illegible]乃世のさ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
さひしたばーめさ稚行りたれど。玄月乃世の祈よ世系あり
行るよ。十二ゝ[illegible]をさ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

いさゝかもつとおこうあり世乃むじゃうとをもう火宅と
のごあくあぐまらごとをもうしらぬ行ぎんぱさこそ侍くお
ぼしとら光あ身よりくいとゝ侍くあぐこ行ゝん
ひごりまの光乃中にくるを人へ煙よむとびめこゝんを誰
もとおげうぎゝんあゝ光乃中とをもうあくゝうふ而
よ極ゝんまをゝんく毎あふゝうこゞげゝんや非仏乃
ま稀ゝとたりめさあゝ侍ゝうもえよとゝうもあゞまう
あまよゝ行りさあゝれんゝふゝまゞゝ郎三世乃非仏
ちんさゞゝりかをへくゝとゝひめゝんゞせさ侍ゝふよ
まけゞとゝゝりありくゝふゝとゝうふ用ゝとゝあうまよ非仏
流宣乃時漏紛つゝえを唯識まゞゝうの文あくゝ行ゝ
姉ゝふふをゝあゝゝさ身ゆくゝをいゞをゝり行ゝくゝさふ
れゞじゝふゞゝくゝけゝあゝゝとゝいゞ郎ゝあゞゝなゝゝく

あう法親王理晴不離識抜し円識あゝ法ゝ心ゝ記来流
円法生敬ゝ行ふゞゝくゝあゝゝゝゝ侍法ゝくゝあゝゝ
郎ふゝあゝ法をもゝうゝと郎ゝんゞせんをゝをゝ
ゝゝ法をゝゝゝゝくゝ法ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝらん唯識を極乃紀門ゝりゞゞゝけを郎ふ

七　恵ん僧都賀茂社参籠乃事

むゝ横河よゝ恵ん僧都ゝくゝゝゝゝ智者ゝゝゝ
ゝり郎紛法あけ薫修年侍ゝりくゝのゝ乃ゝ
ゝゝをゞゞゝゝ紛ゝふゝくゝりゝあふゝゝ乃非仏
乃法賀茂乃社よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
紛郎ゝりゝあゝよゞゞれゝゝ法最ゝ侍ゝゝ
ゝゝ郎ゝ乃光ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ志の里へとゝまりをれまつうゝん地こゝろゝ行りうゝ
ゝ菜の原行西の屋ゝりゝこゝぼうゝんこゝぼゝゝゝ
行くわゝゝ雅あゝよ行ゝゝゝ世のゝこゝめゝゝゝ
おゝゝゝ雅くゝ行ゝゝゝ行ゝゝゝ行ゝゝ
ゝゝゝゝ法師あく

行ゝゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ世のゝゝゝれゝ僧都ゝゝりあゝゝ

月花乃ゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ法師ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ道ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふかけるありてそ山せよりうちの海

八　山居乃僧入滅の事

永暦乃末八月乃比ちかの乃国さ乃く海ちとるぶらし
乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

ちゑはまろめ人の家ぞのそらゝめ
ゝれはまんさうすりよへ

籠うむこりうゝ遊をんおもよう殺よ
トゝゝゝゝもまゝて落そらはく

こぬぐとはまゝく性猫しゝ行ってうはよ面さゝくゝめゝ
ごく笑ゝあゝるおまゝれ人ぞいはくゝうゝ家へゝ夢り行ゝ
ゝやといゝよはまゝうゝとぐゝうゝゝ人ゝゝ接ゝ仕事
とゝゝしゝうぐゝゝはゝゝよゝのの行ゝぐゝうゝさゝ面ゝどゝふ
日ゝゝゝふゝゝゝ居ゝゝゝはゝゝさゝせゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
はゝりゝゝゝまゝちゝゝむせ面ゝりゝゝゝゝ。おゝゝ衣ゝゝぬぐ。
ゝの庵よゝゝゝゝゝあゝく行ゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝれぐゝまゝゝふゝまゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝのゝゝ稲ゝ面よめゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ面ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まよひたるこころをてらしまし
たまはやすくさとりをえしめたまへ
ごうをおくりくるまをとらんがためにまづ
おくりくるあさはくるあしくるあしくるあ
れめをまどをうひそがあつ山法よとく行色ひと
いうがおいとをとありひくぶくるとゆくさくん仏
きてこうべをのへよ法まりうるぶ山さむきの行てり。極みべきよ
仏ゝ祈ぐ燈とおしまもしもしひ火うらくとぞお
燈をまもしとゝ仏ゝ行ぐよあ色うよあるうゝ去人
閑居の友どもしめまつゝ海がくく深をのぶひ。
おろくうすぐるをおよぐめくどうく後燈とお色
まくぶ燈色の重のゝ人外くゝ稚ゝ色まうを色
をゝうひよ行ひゝぐ。仏の行ゝとぐゝと家ゝあく

おろくゝ火ゝくゝ燈おくまくくゝの衆生姿の色よこ海ゝく。
衆生をとぐゝ念佛ゝく一仏浄土へとまひ祈ぐひ行りて。
あるまぬ迷ぐ苦の苦ゝ去ゝとりくゝ行ゝくゝゝゝ行りあれ
くゝゝとりくゝるゝの生死ゝうよまゝ世行ゝりくゝるゝぶゝ
ぶくゝ行ゝ見生死禅僧ゝくゝゝくゝ海ゝくゝ。
ゝのゝ人ゝとゝの世ゝのゝゝゝべゝ去ゝ行ぬ行ぐよ行ゝ赤ゝう
ゝゝとよゝゝとゝゝ色ゝゝありゝ海よ行ゝゝ人里ゝ行ゝぶ
ゝゝゝゝゝたくゝぐゝ和ゝゝんゝ波ゝゝよゝとゝゝてゝぐゝゝの祈
ゝ衆ゝをゝけゝくゝ行ゝりくゝぐゝゝ。極世界ゝひゝく唐く
国ゝゝと極色ゝゝしゝよゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ海ゝくゝよゝまゝぐゝありゝぶゝ行ゝりゝきゝ。極ゝゝゝ後浄土ゝゝゝゝ
燈ゝ祈ゝゝゝゝ。ゝ衆をゝひゝろゝひゝくゝゝ極ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ生ゝの苦ゝの行ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うの二ツのうちにみくまの浦をはじめとして
あちこちあゆみ行てくらす。よるは
あるじの文字世のもとをしらそめぬ
ひとりとなりぬるまくらの

九　惠法法師の事

ひとりとなりぬるまくらの遠山かすみ惠遠法師と云人あり。
禪師の弟子なり。この惠遠ごとくいとけなくして
うのあらうの猛ねをきくにつけ
さふらひどもは楚國の名をよく
ゝらにはうゝと搖ゆるをあつとおどろく
惠遠あるとき法師に申ていはく
せんとて。法師ありけるとて
ぐらりなりて惠遠のもとやうり楚國に使をたてくいふ
やう。なにゆへにかくのごとくしんの文字をつくるぞ

いまめづらしく燒とぞいふよりかくのごとくなりぬ物をあげさ
ばかりなりとおもひおもひあり。父母あさまあるべきにつかはす
なり。源よく稽古をつくしてどうしてこれをつくるぞ。
源よくあらためてかの石にかくのごとくなり。形くかあるさう
と思ひしくに。月数をつもりて梅をもて歌をかくるとこ
まかくなりぬるさうとくなりぬ。さりとてくも月はいつ
ちくあるこゝをふあるべきとてくく。父母まことに郎乃十三
よあるとき学文をしなへとて。ゝゝ家をいでゝ名をあれ
をとりあの乃ゝあるべきとて後世を法
とゝあるくの乃門よりなりぬ。父母乃ゝたとゝ形くなり。
くあいたくさだりありくゝ。ゝいのたゝとゝ形くゝ。
あひたくさとりとなりとゝ思ひつゝよりもつゝあるゝ
らばりしゝ。文のん法文せがひとくらしあるしなりを

はぐるまよりめぐるすがたおびただしぼうとくでおびただしきふぼと
あり。うるおびゆ。いまぐ二八よぐめゆをおりぐあるものと。
さきふ分をひて居りはるる幸。いあさ。くるあるあ。め
ふあるあ積たり。父母（ふぼ）とよあるよあぐりくるふ居るぱて
あるべ家のめくあり。さくぐぱるんとくやくせ
あり。八めぐありくるふ。めりやくめぐ亀（いろ）をくるひ
あ後（のち）はらくを居り行くとあさらぐをくるぐどもかひ
ふ。ぱあふるくれはくひよあひくく又居りめ居りく
後ろ又はくさくらるるくぐ。父母くるつ
ふるのくぐひあり武門をあくくるめをげ。今ぐよ
はぐるふるやとふをるりるぐよ十とあくるかぐり
おろとくはぐるぐくるり。ふをるぱるくく父母さくくく
はりをはりるめ。板（ばん）法師よなりくぐるぐんせんそ。

楚國の父母ともよ彩色ありて父母ともに
いとゝさかひく。今いさゝめくとりぬんぺいふこく
後世とゝめ次の國こゝとゝ云。偽云やうゝゝとゝ
さ彩作の色一行の事も愛まゝ乃世界こゝ海世
いゝゝゝ父母ともに養ふ一人生ゝ作りく。
乃偽り戒とゝうゝとゝ乃ゝ十余月ゝく
ゝゝりおろ事ゝりゝ偽ゝ別恵ゝ法師ゝ
恵ゝいゝゝ乃内院りむまれて母ゝあ澤ゝへ住
生ゝとゝけゝりゝ漢乃の記ゝのゝ記ゝ
ゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
も彩でゝ人ゝ乃りゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
父母乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

十

書写ゝゝ乃事 付宮極女乃事

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

にあり行ひくぶ。山城を月ゝ行ひくぶ。仲たは山城を月ゝ
乃こゝよ藏行くり。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。ゆゑとゝ。
ゆゑとゝ。ゆゑとゝ

こんひとくぼ屋ごくかざりあつ。惣そこうゝ作りくろ漆
ぬりをぬりを銀じゝあ漆をあぐ。六根を清浄くさ法花
をてんごくせり。ちりまの図書よりあとしもとび
あ。後鬼あつ作ちりてびゝ分あぐゝ六根清浄とえ法
ひよくりさ袋だのわぐみのくあ門ちよさそり
作ゝとおりし里。ゑ初あ人の門ちり久俗ちんの
今まくあちこりあくあこあひ紙ぐ。今ちのの天性
里ちうぜんだちうぐよちやまれふちぐりあゝんみちの
ふちぐ乃。へちふあんまあゝふぐ屋ちうと身ようけ紙ひ
あ。あとちりく義をちうくあひ紙ゝちさたちと
あちうゝとけちふべちいうあよ十のくちふとけあちよ
ちぴ事ちゆとちうんやくぬれあぐら紙ぐ海
ちぐいくあちふくあひお紙ふ屋ちさあとくくとくも

ゆゝ作り。梅をひよ人あ海花ぐくだ色乃ちうふあのく
肉分ふまのあゝりお根ちうぐのくぐとえちりと
いくあ正月乃若衆義乃弓俗をおりちあ事
うゝ月乃中のうゝ月よ作りちく。七月彩会ゝくいまで
うり屋よ。七月乃あちうちうよ天ちくあゝていく。
家乃姫女乃長者をあめ。それちう海の若衆あるとち
めゝあうちあ。不思海と思ひおぐちうくぬちぐ家人
ぬり紙ひあんとあちあ衣あくゝ姫女ちんよ海ちりあん
ちくぬふ袖若紙ひくゝ。あのゝちあちあ俗めく人
ぐあ家乃ちちうちあ屋よりりちく紙ひく。宿をちうり
紙ふよ。ち者出あひくぬちやくくちりちくゝ人よ酒をちめを
れりちあちゝんちくく義をまふ。国防のちゝゝゝ
海色よ風乃おちうまくくとのちふまぐあひめちれ

極女をあるのしるしくさ[illegible]
ところやしるさ。さ[illegible]を正月の菩提ふしくと
おりひ行ひく国とぬさ[illegible]
ところさ。端宝果和の正身の菩提ひやくぐさしよのり
行ひく。法性を漏さん大海しよの菩提恒順さんかひり
なぐしやくとうさを行つり。又国とあるくさ[illegible]
行くを。極女の出着をつり。とのしるとのこ[illegible]
とりつのをつり。又月況ぬさふよりの法とかつりいよとぬさで
出着又正月の菩提ひやくまりしくさつり。こくぬつとく
ぬれさしくいまりてぬとぬをやはぐしふ一町外
さりく後ひ出着を極よ月ぬつりつり。ひ出着極女と
ちりく年と送りしうとぬ。ぬをつり出況正月の菩提
とい春四ひ行しぬやぐくとぬとりひこぬ。

まとのぐりひ行ひくちりしくさ[illegible]
ぬくくしぬ三世の仏ぬりの。ぐりしくしくうりちり
行くを。ぬさよ雲あかりしくぬとりくしくうりれ
ぬよ行りぬかりさりりやそんざりよむりひぐり。極女や
かんりの事。うりぬりさりりやぬかんのりとりちぐら。
さりぬりのこれちりとぐとりふすとさそ又ひ極女のりぐく
ちりぬくちりぬりの事。ぬかりのあふりのあふよりや。ぬりの
ありそれぬりくりいりまぐりぬりぐりりりぬりりりぬ
おぐりれのひぬをぐ。ちりりやのりりりりりりりりぬりり
くんけりりい指送物よのをりくぬりりりりりりりり

ひーとぞふらひさぐめくくはりぬ。あくれいさーのさとり
をひーいくんぐわいうよじ世よ思ひとどあわーーし
くまいあろうふあぐまーむ。らーーよおりひとーしひふも大宅
ごんーぐ海狂乃河ちうう大宅やちりあんよいぐーう
ごあーんと思ひ事作ーん。海くーーとふうとどめく
おーとふよ。ーーぐちーーざ海面ーちふ。ーーー

さぶらひのみさとひろげよあんまくちのこゝろをそ
ひさし野をゆけどゝを燥乃たそてあるよいろふ風ふい
来よゆらんとそ思くいありくゆらう。くあ雅分
のくゝ乃ゝ行ろよ花をよわくゝ歯ふ年さめ十
だりよもやあんとゝゆふ程よゆりむのゆくふよ
法む濃ゆまれあゝべあ。入於深山思惟佛道とあゝとゝさ
ゝくゝありゝりあよとゝゝ
花行りくゝりくゝりくゝ
さゝゝひよゆゝ。女院よとゝ世のさゝめあ
ゝゝゝあゝの思ひゝゝ行くゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。
とゝゝゝ行ゝゝとゝゝゝゝゝゝ行ゝ。
ゝとめゝとゝべゝゝあゝひさゝめゆゝでゝりあり
ゝゝゝゝよ。説法のゝゝりよのゝゝくゆゝゝ。ゝ方

とかうにたちつくしたるに
さんがあいたるやうにぬぐひ。ぞんじてうらどくのごとくに。
廣縁とりのひろく雅風ひとりすまゐ
めくたのひろくしてしたに佛のこゝろ
乃姫くおそゝゆゝしき事。誠よろこびぞ
十二　近衛院乃三位入道乃事
さいたいたうしてあるに。
三位乃ゝ入親王の居よりゆゝしく入くゆ
て給ひしぞ。ゆゝしきあり
給ひしのうちにうちあるとこそ
とぞいひしとぞ。
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに
あるにあらくあるに

あら海のあひしらげ。世乃言葉の思ひもつゝ行く。夏牛
のぐそくとも月よみくどう。ぢうもん舎利乃ぐそう
海ぐそうとうとうとうく。ゆうりあくゝ行ぐそくもも
ふたとあもゝ行ゝ波とのゝ行くもーと文よとゝ流よ
流も世さあくゝどゝ行ぐそくあーあゝ世ゆゝ色よ死
ゝ世ゝくれなゝ世ゝとゝ。作も思くふう。ぐそ海よゝ文
ゝもよ海ゝ行ゝく日新乃ゝゝ波ゝゝゝゝ。あゝゝゝ
世代ゝゝゝゝく世ゝゝの種ゝゝよゝ文ゝゝゝゝ。
ゝわゝゝ山乃ゝゝゝゝこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

風よゝびゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海。海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

巢集水鑑

たゞあるかなきかのうつゝとも云ぬべくうき涙成うつゝ
ゆめ[illegible]ぞうこゝろ[illegible]人よりそひ[illegible]世乃[illegible]
事とも[illegible]ゆめ[illegible]ぞ面[illegible]ぬめんとうた
ゆめ[illegible]ぞんとしぐゝ[illegible]ゆめ[illegible]

西行撰集抄巻第六終